



## はじめに

兵庫県知事 井戸敏三

兵庫県が誕生して150年の節目を記念し、平成30（2018）年1月から15ヶ月間にわたり、兵庫県政150周年記念事業を展開してきました。この記念事業を通じて、県民一人ひとりがふるさとの歩みを振り返り、また、未来の兵庫づくりに向け、思いを新たにされたことでしょう。参画いただいた多くの方々に改めて感謝いたします。

版籍奉還後、点在する旧幕府領を管轄する機関として生まれた兵庫県は、2度にわたる統合を経て、摂津、播磨、但馬、丹波、淡路から成る広大な県土を有する雄県に至ります。兵庫県は、個性豊かなこの五国が切磋琢磨し、時に連携して総合力を高めることで、これまで発展を続けてきました。

しかし今日、国内にあっては人口減少と高齢化の進行、国外に目を転じれば、不安定な世界情勢や気候変動などの課題が山積し、先行きの見えない不安が広がっています。そうした時代だからこそ、先人たちが困難を乗り越え、今日の繁栄を築いてきた過去から学び、未来に向けたビジョンをみんなで共有しなければなりません。

そういう思いを基本として、単なる周年祝いではない県民一体となった記念事業を始めました。

記念式典では、次代を担う子どもたちに自らの将来を見据え、未来への期待を語ってもらいました。ポスト150年の新たな兵庫づくりの指針として「兵庫2030年の展望」も策定しました。さらに、県内各地で1300を超える県民連携事業が展開され、ふるさとの魅力の再発見や地域間交流の促進が図られました。

このほか、首都圏や大阪でのPRイベント、SNSを活用した地域資源の掘り起こしにも取り組みました。県民局・県民センターでは、ひょうご五国の個性を生かした地域事業を積極的に展開しました。

兵庫県には、これまで、開国直後の欧米列強の脅威に対抗するための急激な近代化、太平洋戦争による損失、高度経済成長の歪みの顕在化、そして成熟社会を迎えるなか襲った阪神・淡路大震災など数々の困難がありました。兵庫人は、進取の気性をもってこれらの課題を克服し、新しい価値観や制度を生み出し、それぞれの時代の主人公となってきました。

今を生きる私たちも勇気を持って直面する課題に挑み、日本を先導し、兵庫の歩みを未来へ繋げなければなりません。記念事業は終わりましたが、豊かな地域づくりへの努力が絶えることはありません。新たに掘り起こした地域の魅力や深めたふるさとへの誇り、地域間や世代間のネットワークが大きな力となります。

目指すは「すこやか兵庫」です。ふるさとを愛する県民の皆様、50年、100年と未来へ続く兵庫づくりを手を携えてともに進めていこうではありませんか。